

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2171000454 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 福寿会 | | |
| 事業所名 | コスモス苑「赤とんぼ」 | | |
| 所在地 | 岐阜県郡上市白鳥町白鳥405番地5 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年7月16日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年11月20日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171000454-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと |
| 所在地 | 岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル |
| 訪問調査日 | 令和2年10月2日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町の中心に近いという環境の中で、地域との交流を深めながら、その地域の一員としての意識を持ち、日々の生活の中で生きがいを感じ心穏やかに生活できるような空間づくりに取り組んでいる。医療法人社団福寿会として、グループホームの他に、小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者生活介護、短期入所生活介護など各施設と連携をとりながら、入所者様やご家族様の希望に沿った総合的な支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は医療法人で事業所のすぐ傍にあり、24時間の医療支援体制ができています。町の中心部にも近く、利用者は住み慣れた地域で入居前の生活習慣を継続することができ、馴染みの住民とも交流しながら、日々暮らしている。現在は、新型コロナの影響により、様々な制限も多い。食事については、地産地消を大切に地元の商店から旬の野菜を調達し、栄養士の指導のもと、利用者も職員と共に食事作りに関わりながら、楽しい時間を共有している。学生の介護体験受け入れを行い、後継者育成にも努めている。卒業後に職員となった人もある。職員は自分の家族、自分が利用したいホームを目指し、日々研鑽に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|---|-----------------------|---|----|--|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所の目立つところに理念を掲示し、職員全体が実践できるよう努めている。地域の方にも認識してもらい、利用者の方が笑顔でその人らしく安心して生活していただけるよう努めている。 | 「見守ります・見逃しません・笑顔を引き出します」を理念に掲げている。地域住民にも事業所の理念を伝え、行事の都度、職員が取り組み状況を報告し、運営姿勢の理解に努めている。利用者が住み慣れた地域で、住民の協力を得ながら理念を実践している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 盆踊りでは会場を提供、夏祭り園児の交流、春・秋祭り、中高生の体験受け入れ、利用者も楽しみにしている。また、散歩、外気浴等で地域の方と交流する機会がある。 | 母体法人が医院であり、地域住民の多くがかかりつけ医として利用している。医院の庭は散歩や語らいの場、地域の行事等にも利用され、利用者との交流の場ともなっている。中高生の介護体験や技能実習生の受け入れを行いながら、次世代教育にも取り組んでいる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方から聞かれたり、相談された場合、理解していただけるよう説明し対応している。盆踊りの時など利用者の方も踊りに参加し、ふれ合うことで理解してもらい温かい目で見守られている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は、行政・自治会・民生委員・家族・利用者も参加され、意見交換し、新しい情報なども知る良い機会となっている。防災訓練・水害・地震時についても、対応策を話し合っている。会議で得た情報意見はケア会議で職員に伝え話し合っている。 | 運営推進会議開催時には、多くの関係者が参加し、意見交換を行い、地元の高齢者の現状、防災訓練の対応、協力体制など話し合っている。家族から、食事内容が知りたいとの要望に応え、利用者個々の状態と併せて献立表とカロリー等の一覧表を家族に送付している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 高齢福祉課より月に一度介護相談員がみえ、利用者の様子・意見を聞き、職員に感想を伝え視野を広めている。運営推進会議などでも、行政の取り組み情報など伝えてもらっている。 | 行政担当者とは、介護保険の動向や地域福祉について意見交換を行っている。日常的に行政と連絡を密にし、コロナ対策や困難事例などで助言を受けたり、行政主催の会議に積極的に参加し、利用者サービスにつなげている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 利用者の安心・安全を第一に考え、職員同士話し合い拘束しないケアを目指している。危険行為がありやむを得ず拘束する場合は、家族に説明し、同意を得て最小限にとどめる工夫をしている。 | 身体拘束廃止委員会を定期的開催し、職員間でも身体拘束についての学習会を行っている。職員は外部研修にも参加し、スピーチロックについて学び、拘束をしないケアを実践している。拘束をしないことで起こるリスクについても職員間で十分話し合い、利用者の安全を第一に考え、支援を行っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会、ケア会議などで話し合い防止に努めている。利用者様の立場に立ち、考えて行動する。人権を尊重し、対応に努めている。 | | |

岐阜県 グループホームコスモス苑「赤とんぼ」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 後見人制度を利用されている利用者の方がみえるが、制度について理解できていない為、勉強していきたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所時、家族様より意見や情報を詳しく聞き、安心して頂けるようにしている。また、分からないことがあれば納得していただけるまで説明し、理解していただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会にこられた時など、利用者の方の様子を伝え、又家族の方の要望・意見を聞き、その内容は職員全員で共有し、話し合いケアの向上に役立っている。 | 母体の医院に受診し、帰りに立ち寄る家族も多く、職員は、ゆとりを持って家族と意見交換を行っている。担当職員の手書きメッセージと共に、家族の要望であった献立表や個々の食事量の文書を家族に送付するなど、出来る限り、家族と情報の共有をしよう努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ケア会議等で、意見を出したり他の職員の話の聞いたり意見交換し反映されている。管理者も同じシフトに入り、業務の内容・意見・要望を聞くよう努めている。 | 職員は、気付きや要望を気軽に発言できる環境にある。管理者は、意見や要望について迅速に取り組み、利用者サービスに活かしている。また、子育て中の職員も、安心して働けるよう勤務体制を考慮するなど、経験豊かな職員の協力を得ながら、個々の希望に沿った職場環境作りに努めている。 | 事業所は、職員の年齢層にも幅があり、職員間のコミュニケーションを深めながら、経験ある職員と若い職員が英知と工夫を出し合い、ケアに取り組んでいる。現在、サービスの向上に向け、更なる支援のあり方を検討している。その実現に期待したい。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員それぞれの勤務状況、資格手当など、やりがいをもって働けるよう就業環境が整っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 全職員ではないが、施設から研修・講習などに参加させてもらっている。様々な研修や資格取得時に必要なサポートをもらっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他施設との交流はなかなか機会がない。機会があれば勉強会に参加し、質の向上に努めたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 普段からコミュニケーションをとり、安心して暮らせるよう、利用者の要望や困ったことを聞き出せるように声掛けを多くし、信頼関係を築けるよう努めている。気持ちに向き合い寄り添っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の方の話をよく聞き共感している。毎月個人便り・苑便りなどで近況報告をし、安心して頂けるよう努めている。面会持なども意見を聞くようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所時に、ケアマネ・本人・ご家族と話し合い、必要な支援を見極め、支援に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者様の自主性を尊重しながら人生の先輩として尊敬の心で接して信頼関係を築いている。想いに気付けるよう努め、安心して生活していただけるよう、関わりを考え行動している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者と家族の絆を深めるように話しかけや情報の共有をし、お互いに協力し利用者の方の笑顔を増やせるよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 苑外の散歩に行く機会をもち馴染みの場所や人に関われるよう努めている。ご家族の協力で、外出・外泊している。苑内の他施設で知り合いの利用者様と交流する機会がある。 | 同法人運営の施設が点在している苑内の敷地は広く、天気の良い日は、庭で散歩や日光浴をしている。近隣の住民が、犬の散歩や敷地内に設置してある地蔵参りに訪れた際には、挨拶を交わし交流するなど、馴染みの関係継続に繋げている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 一人ひとりの個性を理解した上で孤立しないよう見守り、話を聞き、利用者同士支え合えるよう支援している。利用者同士が仲良くできるよう助言や手助けに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他施設へ行かれてた方、入院された方は面会に行き、話を聞いたり相談にのったりしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者の方の立場になり考え、本人の思いや希望をくみとり、想いに添えるよう努力している。 | 職員は、理念の「見守ります・見逃しません」を、常に意識し、ケアに努めている。また、利用者の笑顔を引き出しながら、安心して何でも話せる雰囲気作りを心がけ、本人の希望や意見を把握できるよう努め、新たに知り得た情報は職員間で共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 契約時に家族の方より、今までの様子を詳しく聞き、本人の希望を把握するよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 朝の申し送りや、バイタルチェックで心身状態の把握に努めている。職員同士で情報を共有し体調管理に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人の様子や家族や職員の意見をもとに必要と思われるプランを作成。利用者のニーズや記録から適した介護ができるよう、ケア会議等で話し合う。 | 家族の希望や要望を訪問時に尋ねたり、文書でも意見交換を行っている。担当職員と関係者が十分に話し合い、現状に即した介護計画を作成し、家族に説明している。計画後、利用者の状態変化が生じた時には課題を明確にし見直しを行っている。 | 介護計画作成時には、家族と日程調整を行い、本人の課題、家族の希望、日々の状態など具体的に意見交換しながら、家族がチームの一員として介護計画に参加できる体制作りを期待したい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 申し送りや介護記録を活用し、その場でのカンファレンスで対応を考えプランに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の状況やニーズを把握し最善の対応に努めている。 | | |

岐阜県 グループホームコスモス苑「赤とんぼ」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域で行う盆踊り、春・秋祭りなど地域の方と交流し楽しんでいただいている。毎月1回カフェの日がありケーキや飲み物を楽しみにしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 施設に併設している医院の主治医が健康管理をしているが、専門的な治療を受ける場合は家族の理解と協力を得られるよう努めている。 | 契約時に、かかりつけ医について説明し、本人・家族の希望のかかりつけ医を選択している。母体法人の医師、看護師、他の医療機関とも連携し、24時間の医療支援体制にあり、利用者と家族の安心につなげている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者の訴えや体調の変化を看護師に伝え対応。必要時には医師に連絡し対応している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時は、紹介状・サマリーを持参スタッフも同行し、情報を提供している。退院にむけては病院関係者の意見を聞いたり協力して頂いている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に重度化した場合や終末期の在り方について家族と話し合い、早い段階から家族と連絡を密にとり、本人、家族が納得できるような対応に努めている。 | 契約時に、重度化や終末期の取り組みについて説明し、本人・家族の同意を得ている。状態の変化時は、早い段階で家族と関係者が話し合いを重ねている。医師、看護師を含めて事業所でできることを説明し、家族の協力を得ながら支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 応急手当等の訓練は行っていない。事故の起きたときは、医師・看護師に報告、指示をうける。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 毎年消防署、自治会が参加し施設合同・各施設で災害訓練を行っている。運営推進会議などでも協力体制づくりについて話し合い地域の方にも協力して頂いている。 | 年2回、消防署立ち合いの下、夜間想定を含めて防災訓練を実施している。職員の役割分担表も整備し、安全な避難誘導を行っている。地域の地震、水害の訓練も事業所の庭で行われ、利用者の誘導など住民の協力を得ている。今年度は、防災頭巾を新しく準備している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの方の性格を理解し人格を大切に考え、それぞれに合わせた言葉かけや関りに気を付け対応するよう努めている。 | 職員は常に理念を念頭に置きながら、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない支援に取り組んでいる。浴室やトイレなどは、プライバシーに配慮した設置になっており、職員は、心遣いと気配りを持って支援している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 言葉かけや、かかわりを持つ中で本人の思いや希望を見つけ出し、行動により思いを知るよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人の意向を一番に考え、本人のペースに合わせるよう努めている。居室で過ごしたい方は居室へ行き、フロアに居たい方はフロアで過ごしたりしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人、家族様の希望を聞き取り、美容院に行かれたり季節に合った服装ができるよう、家族の方の協力も得て対応している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節や行事に合わせた料理を提供し、おいしく楽しく食べてもらうようにしている。メニュー書きや、テーブル拭きなど利用者の方にやってもらっている。食事前は口腔体操を行い嚥下力を高めている。 | 食材は、近隣の八百屋から購入し、栄養士指導のもと旬の食材を使いながら調理している。利用者は、できることを手伝い、職員と会話をしながら楽しく食事作りに参加している。利用者の状態に合わせた食事形態で提供し、完食につなげている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの方の食事チェックを行い問題のある方は栄養士と相談し対応。食事以外にも午前、午後、入浴後、希望されるときなど水分補給にも気を付けている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを行っている。できない方は、ガーゼ・スポンジ清拭をしている。夜間は入れ歯を預かり洗浄剤につけている。 | | |

岐阜県 グループホームコスモス苑「赤とんぼ」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表でその人のパターンを把握し本人の希望や声掛けで排泄支援している。介助の必要な方は、利用者のペースに合わせて声掛けし、トイレでの排泄支援をしている。 | 利用者の排泄パターンを把握し、排泄リズムに合わせて声かけと誘導で、トイレでの排泄を習慣にしている。職員は、利用者の状態に合ったパッドで調整しながら、布パンツの維持に積極的に取り組み、排泄用品の使用軽減につなげている。昼夜とも声掛けと誘導を行うが、安全面と安眠を考慮し、排泄用品での対応もある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表記入で状態把握、レク体操などで体を動かしてもらったり、水分ゼリーを摂取して頂いたりしている。それ以上無理な方は薬や座薬で対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 基本週2回の入浴となっているが、体調の悪い方や拒否のある方は変更している。一般浴が無理な方が多く、リフト浴での入浴者が多くなっている。 | 週2回の入浴であるが、利用者の状態に合わせて、柔軟に対応をしている。個浴でゆっくり入浴を楽しむ利用者や、リフト浴やストレッチャー浴でも、無理のない入浴方法で心身リフレッシュして、利用者が笑顔になれるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者の方の希望や状態をみて休んでいたたり、夜に安眠できるよう外気浴や適度に体を動かしていただくようにしている。安眠のため、毎日の掃除やベッドの配置などの工夫もしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の作用を理解し、飲み忘れのないようチェック表を活用し、服薬確認している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 人生観を把握し、尊敬し聞き上手となるよう努めている。情報収集で好き嫌いを把握し、レク活動、行事など楽しい時間を提供している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 戸外に出ることで気分転換や地域の方との交流にもなっている。花見・遠足など行事のある時は出かけている。遠出の希望のある時などは家族の方に知らせ、協力して頂いている。 | 天候や利用者の状態に配慮しながら、散歩や日光浴をしている。庭に出れば、犬の散歩をする住民と会話を楽しんだり、一緒にお茶を飲んだりすることもある。年間行事では、花見や遠足など、家族の協力を得て実施していたが、現在は、新型コロナウイルス感染予防の為、様々な外出支援を自粛している。 | |

岐阜県 グループホームコスモス苑「赤とんぼ」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | トラブル防止上、事務所で管理している。物盗られ妄想や短期記憶障害により利用者本人の管理は無理。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望があれば支援している。職員が月に一度手紙を書き、様子を伝えている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有の空間の清掃に努め、フロアには季節に応じて花を飾ったり、一緒に作った作品等を飾り楽しんでもらっている。 | 今年度は、新型コロナ感染予防の為、共用空間や居室への入室は叶わなかったが、PCで画像や動画で確認することとなった。庭で育てた季節の花を飾り、利用者が作成した季節の作品やカレンダーなどを掲示している。2階の談話室からは、住民の暮らしぶりや往来を眺めることができ、広い空間は補助具が必要な利用者も安心して移動ができる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 穏やかに過ごしていただけるよう席など配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には写真や作品を飾り落ち着けるようにしている。家族の方の写真を飾ったり好みの物を使ったりして頂いている。 | 暖簾や花を飾り、自分の居室が分かりやすいよう工夫している。洗面台、クローゼット、ベッドが設置され、トイレ付きの部屋もある。使い慣れた家具や小物を持ち込み、家族の写真や思い出の物を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全に気を付け障害物を置かないよう気を付け、一人ひとりできること、わかることを把握し、本人にやってもらうよう努めている。 | | |